

# 第3回上牧町総合教育会議

## 議事録

- 日 時 平成30年3月28日（水）午後2時00分から午後3時35分
- 場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
- 出席者 今中町長、松浦教育長、宮城委員、東谷委員、暁委員、渡邊委員
- 事務局 爲本総務部理事、野崎課長補佐、俵本係長、日高主査  
藤岡教育部長、塩野教育総務課長、森本社会教育課長
- 次 第 開会  
町長挨拶  
案件
  - 1 平成29年度の取組について
  - 2 平成30年度の施策について
  - 3 懇談会閉会

### ●議事概要

#### 町長挨拶

・教育長と共に県の教育サミットに参加し、そこでの大きな話題として、「幼児教育をこれからどのようにしていくのか」「幼稚園・保育所も含めて、運動・遊びを通じて子どもたちを育てていこう」という話があった。また、そこで「保護者の意識」というものを持ってもらわなければ行政側として中々進めていけない。という話が挙げられたが、知事は、「保護者を超えるような熱意・見識を持った指導者・先生を養育することに目を向けなくては、いつまで経っても同じである。」という回答をされた。知事のおっしゃることももっともであるが、現実問題として保護者の多様な要望があり、難しい問題である。

・上牧町がこれから目指す教育としては、「天才を育てているのではない。」ということである。義務教育の範囲の中で、社会や高校・大学で学んでいくための基礎を植え付けることが我々の役割であると考えている。そのためには、世間一般に通用する学力を向上させることが必要であると感じている。

・電子機器、スマホの問題であるが、それ自体は大変便利な道具である反面、様々なやり取りができることにより、差別的・人権的な問題もはらんでいる。その部分に関してはしっかりと子どもたちに教育していく必要がある。

・若者の間で流行している、縮めた言葉に対する問題がある。流行りを追うこと自体が悪いということではないが、それを正しいと認識してしまうと、社会で生きていくために存在する一定のルールに適応できなくなってしまうのではないかと。また、子どもたちの言葉・表現力が、この流行りのために大変乏しくなっているし、この先も進んでいくのではないかと考える。日本語は、特有の表現もあり難し

いが、表現力・日本語を大事にすることも教育していく必要があるのではないかと考える。上牧町では、そのために特段パフォーマンスを派手に行うわけではなく、地道に取り組んでいくことが、一番成果も出るし大事だと考えている。

・引き続き、子どもたちがしっかりと学ぶことができるようお願いをして挨拶とさせていただきます。

教育総務課長より、案件 1 の平成 29 年度 of 取組について説明

社会教育課長より、案件 1 の平成 29 年度 of 取組について説明

教育総務課長より、案件 2 の平成 30 年度 of 施策について説明

社会教育課長より、案件 2 の平成 30 年度 of 施策について説明

以下より、案件 3 の懇談会

東谷委員 学校施設の耐震化が終わり、加えてエアコンの設置もしていただけるとのことで、教育委員会に対してのご理解に大変感謝している。後、考えられるのは施設の長寿命化や構造部材の耐震化であるが、これに関しては災害・震災が起こるまでに早めにやっていただきたい。ただ、ハード面は大掛かりな手術が落ち着いたと考えられるので、今後はソフト面のご理解をお願いしたい。学校 ICT の話があったが、Wi-Fi や LAN 線等の工事を行わなければ ICT も進んでいかないので、これらの工事をお願いしたい。

今中町長 ICT 教育を行うには、財源の調達と指導者の確保が課題となってくる。特に、学校の先生が ICT 教育を行う場合、研修を受けて機器を使用できるようにしなければならないが、学校の先生にそれだけの余裕があるかが問題である。

松浦教育長 すべての子どもたちに情報機器を持たせるということは、財政面でも不可能である。たとえ、財政面が整っていたとしても、指導できる教員が整備されているかが一番の課題である。そこで、数年をかけて研修を行いたいと考えており、今年度も夏季休業中に業者の方に研修をしてもらい、技術面での向上を目指している。

東谷委員 ICT を使った授業というのは組み立てが難しいため、子どもたちの興味を引くことができるというもの、現時点での授業数は少ないと聞いている。教育委員会としてもそういった取り組みをしっかりとしていかなければ

ればならないと思っている。

今中町長 良い・悪いは別として、これから ICT 教育が主流になっていくと思われるし、実際そういった流れができています。後は先駆けてやるか、後れを取るのかという違いだけの様な気がしています。但し、ハード部分のみを揃えただけでは宝の持ち腐れになってしまうため、指導者の確保・教育にも力を入れていかななくてはならない。そのため、教育委員会とも歩調を合わせていかなければならない。

東谷委員 指導する先生が少ないので難しいというお話であったが、まず環境を整えてはどうか。呑み込みの早い子どもたちに触れさせて、先生についていってもらうというような。

今中町長 子ども全員に機器を与えられるだけの予算は組めない。だからと言って、何もしないというわけではない。どの程度用意すべきかという問題がある。教育部長、その辺りはどうか。

藤岡部長 教育指導要領が変わることに伴い、ICT 教育、タブレット・電子機器を使った授業を行うことが盛り込まれる。教科書についても、電子ブックというようなものも活用できるように変わっていく。町長が先ほどおっしゃった通り、すべての子どもに機器を配布することは不可能であるが、先生方の分と一クラス分または、二クラス分の機器及び Wi-Fi のシステムを導入することが必要最低限ではないかと思う。費用に関しては、中長期財政計画でも挙げさせてもらっているが、全校で三千万円から四千万円程度かかる見込みである。そして、現時点では明確な補助制度は無い。

今中町長 ICT 教育はこれからの流れであるため、やらないわけにはいかない。中長期財政計画に入っているということから、財政側もわかっている話であると思う。

東谷委員 上牧町の先生の中でグループを組んで、研究会等はされているか。

松浦教育長 それは無いが、それに代わって夏季休業中に研修を半ば強制的にさせてもらっている。

今中町長 一回研修を受けたからといって、すべて分かっているというわけではない。複数回受けていただかなければならないが、先生にそれだけの時間の余裕があるか。

- 藤岡部長 間を開けてしまったら、忘れてしまうこともあるので、タブレットを常に触れる状態にしなければならないと考える。
- 東谷委員 他の市町村では、ICTの強い先生方が中心となって研究会を組み、授業の研究をしているというのが多い。上牧町でも研究会のようなものを組んで、授業の研究をされても良いのではないか。
- 今中町長 藤岡教育部長も言っているが、研修会・勉強会という話ばかりでは前進しない。実物を渡して慣れてもらった方が早い。先生方には事前に研修を受けてもらい、機器も一クラス分の30台を配布して授業を試験的にやるというのも、ICT教育を進めていく方法の一つでもある。
- 藤岡部長 試験的に行う場合でも、Wi-Fiの初期投資の二千万円・三千万円は必要になってくる。
- 今中町長 初期投資がもう少し安ければ動きやすいが。
- 東谷委員 何時、何を導入するかというのは、大変難しい。今はWi-Fiが使いやすいが、今後もっと良いものが出てくる可能性もある。
- 今中町長 確かに、技術革新で変化する可能性はあるが、話題にある電子機器的なものは教育の中に入り込んでいくことは事実。どれを取り上げて実施していくかは考えていかなければならない。
- 松浦教育長 子どもたちに植え付けたい力というのが六つある。思考力・判断力・表現力・IT活用能力・探究力・協働力である。そのうち、何れか一つでも欠落してはだめだと思う。先生方にも得意・不得意があり、ITの研修があるのですべての先生方に集まってくださいというのは難しい。財政面と教員の想いが合致すれば簡単なことであるが、数年前にすべての子どもたちに機器を与えた市町村が、学習効果を上げているかと不透明な部分がある。したがって、東谷委員がおっしゃるように、何時、どれだけのものをどんな形で子どもたちに提供していくかということが課題となってくると思う。その辺りを町当局と相談しながら検討していく必要がある。併せて、教員の意識や資質を上げていかなければならないので、タイミング等総合的に考えて、一歩ずつ進めていきたい。
- 今中町長 子どもを育てる、教えるというのは難しい。個性の豊かな子もいる。いづれにしても、小さい子どもの時に、大きくなっていった時に力になる

ようなものを蓄えさせなければならない。今実施している「まきっこ塾」でもそうである。色々な意見があり、その中の一つとして、小学校6年生まで対象としてくれないか。というものがある。しかし、我々は塾を経営しているわけではない。低学年の間に学習習慣を身に着けさせることが一番大事だと思い、この事業を行っている。本来、保護者が行うべきことも、行政に押し付けてくるが、そこは保護者にしっかりわかってもらわなければならない。タウンミーティングでは他にも意見があり、高校生までの医療費の無料化のお話も出たが、我々は、義務教育の期間中は責任を持って教育等させていただくと考えており、中学校卒業までの期間の医療費は無料化している。

渡邊委員 「まきっこ塾」にお子さんを出す親の思いというのはどんなものなのか。早く帰ってきて親がいないため、預けるという意識からなのか。

今中町長 その思いが強いと思う。共働きの家庭と、ひとり親の家庭があり、そういった保護者の精神的な負担を軽減させるために事業を行ったらどうかというのが、最初の考え方であった。しかし、それぞれの家庭を区別してしまうと差別にもつながってしまうし、不平等となってしまう。

渡邊委員 おやつ食堂がそうである。困った人だけでなく、どなたでも良いと。

今中町長 行政としては、保護者の皆さんの負担の軽減を目指している。小さい子どもの中に、学習習慣を身に着けさせるということが大事であるので、家に帰っても誰もいないお子さんだけでなく、誰でも参加して良いというのが基本的な考え方となっている。

松浦教育長 学習成績だけを上げるのであれば、小学校の高学年及び中学校3年生をターゲットにして、集中的に勉強を行えば良いが、それであれば学習塾と変わらない。なぜ、小学校1年生から小学校3年生までを対象としているかというと、指導するアドバイザーも十分対応できる年代である上に、学習の基盤を作っていかなければならない時代であるということが挙げられる。平等の不平等と不平等の平等という関係がある。従って、すべての人に募集をかけて、要綱に則れる人なら参加可能としている。そうして、一年半が経過し、まだまだ先は長いですが、一定の成果が出た。

今中町長 この前、ある議員から、子どもを迎えに行けないので「まきっこ塾」に行かせることができないという保護者の意見があるが、どうか。との質問があったが、送り迎えまではできない。すべてが100%良いというものはない。いろんなマイナス点があるが、そのマイナス点を理解してい

ただいて、協力できるところは協力していただければ、物事は何も成り立たない。

暁 委 員 町長の冒頭のお話の中で、胸のすく思いを2度程した。一つは、知事が行政でやらなければならないという発言をされたことに対して、保護者がやるべきことはやってもらわなければ困ると、町長がおっしゃってくださったことである。まさしくその通りで、何から何まで全部行政に委ねて良いわけではなく、できる範囲のことはやって、協力し合っていかなければならない。もう一つは、ICT教育や機械を使用したことに関してであるが、その前に、町長がおっしゃっていた正しい日本語教育ということも大事であると思う。是非、上牧町を挙げて、小学校・中学校の義務教育の中で、日本語教育・国語教育に力を入れていただけたら、ありがたい。

今 中 町 長 若い時は、言葉を短くしたり新しい言葉を造って楽しんだりする。メディアでもやっており、それで良いと思ってしまう可能性があるが、現実ではそうではない。日本語の表現力というのが、話すにしても、文章を書くにしても大事であり、小学校・中学校の時にしっかり学んでいなければ、大きくなったら不自由してしまう。

宮 城 委 員 下の子に、先日初めてタブレットを持たせたが、その中のコミュニケーションアプリ（以下、アプリ）の中でのチャットに、言葉の省略化が見られる。また、以前に息子の友人が息子に成りすまして、アプリのグループチャット上で話し、上の子が今の子のマナーに疑問を持つという出来事もあった。そんなこともあって、本日のお話のすべてに当てはまるし、どこまで保護者が意識を持っているか、子どもたちがどういう実情の中で、携帯電話を通してどういう会話をしているか。マナーはどうなっているか。日に日に子どもたちの状況が変わっていく中で、親としてどうしていくべきか、どういう風に考えていくべきかということは、すごく大切なことで、その子どもたちが育った時に、今度は自分が地域の中の一人として、地域で子どもたちを見つめていく、見守っていくということが大切であると思う。

今 中 町 長 英語を習うのも大事ではあるが、国語・日本語というのも大事である。そこに特に力をいれていかなければならない。

宮 城 委 員 入社したての会社員が欠勤するのに、アプリで一言だけ言って休むということもある。普通なら電話で、どういう事情かも伝えると思うが。

今中町長 アプリ上で、心にならないような表現をしたり、人をおだてるようなことや、侮辱するようなこと、差別するようなことを書いてみたりすることがあるが、それは、機械の中であるからできることである。ちょっとした連絡をするといった、道具として使う場合は便利な道具であるが、やはり、話をするときには、顔を見て話すということが大事であると考え

る。

松浦教育長 現在は、情報機器の使い方が上手く、国語力もある子を育てることが良いとされている。奈良県の子どもたちは、規範意識と社会性の向上に欠けていると言われている。上牧町は奈良県の平均より低くなっている。正しい国語力を身に着けさせたり、ICT教育もしたりしなければならない。全校にタブレットを持たせたい。等々、いろいろなことがあるが、財政面のことは町当局と相談させていただく。

今中町長 ICT教育や国語教育等、すべきこと、大切なことを、みんながしっかりと認識していることが大事である。

閉会